

大田食支援研究会

～「高齢者等の食」を支えたい～



世話人代表
前田 憲邦

食支援における地域の動き

- 保健所が様々な地域課題に焦点をあて、『多職種研修』を実施
テーマの1つに “高齢者の口腔ケア” もあげられた
- H28年頃、大田市『地域ケア会議』で “口腔ケア” がテーマに
- 邑智郡では、『邑智郡食事栄養支援協議会（主 | 邑智歯科医師会、加藤病院）』にて、「食形態一覧表」の作成・「口腔ケアサポーター」等の取り組みを実施

圏域における食支援の機運が高まってきた

圏域で“高齢者の口腔ケア”研修会を

保健所が大田歯科医師会等との連携事業で企画！

研修会の事前準備として～意見交換会を企画～

- NST医師 「NSTを無くすことが最終目標」
- 歯科医師 「20年前と比べ、施設での食支援状況は大幅改善」
(調理の工夫、形状の多様化など)
「地域で食支援に関する相談窓口がない」
- 社会福祉士 「デイサービスで口腔ケアが取り組まれていない」

少しずつ食支援の地域課題も見えてきた

テーマ 『食べることは生きること』

約120名の医療介護職が講演とワールドカフェに参加



新食研
五島朋幸氏

【意識の変化】

- 食べることを観察して、在宅を支えたい
- できるだけ食事ができる環境を作らなければならない
- 管理栄養士として何かできないかな？
- 地域として食べられるまちづくりをするため、具体的な方法やシステムを知りたい
- 人材が少ない。でも住民一人ひとりに浸透していけるようにぜひ協力してやっていきたい

【支援の向上】

- 少しでも口から食べれるよう努力したい
- 事例が参考に明日から活かしていきたい

【連携の強まり】

- 連携のしくみづくりが必要だと思った
- 他職種の見解が勉強になった

「食支援について地域で連携したい」
「最期まで食べられるまちづくりに関わりたい」

『食任会』 ついに発足



- 定例会 月1回『食支援』に関わる医療介護専門職の勉強会
- うめがえ内科クリニックの2階で
- LINEとメーリングリストにて情報共有

補助事業も活用しながら、チームづくり

医療介護連携の推進

【診療所を中心とした連携チームへの支援】

- 医療連携推進事業
 - ・ 郡市医師会単位において行われる小規模な医療介護連携のモデル的な取組（小規模なチーム作り）を支援 【補助率】 2 / 3
 - ・ 事業成果報告会による県内への普及拡大

市町村が行う在宅医療推進に対する支援

【市町村への支援(市町村を通じた間接補助)】

- 訪問診療・訪問看護確保対策事業
 - ・ 条件不利地域において訪問診療・訪問看護を行う医療機関等を支援 【補助率】 3 / 4
- 訪問看護ステーションサテライト整備事業
 - ・ 条件不利地域において、訪問看護ステーションのサテライト（出張所）を整備する場合、経費の一部を支援 【補助率】 3 / 4
- 地域医療・在宅医療に対する住民理解促進事業
 - ・ 地域医療を支える医療関係者の取組みや在宅医療の重要性について地域住民への理解促進を図る取組への支援 【補助率】 3 / 4

在宅医療の普及啓発

- 在宅医療普及啓発事業
 - ・ 国主催の在宅医療関係研修を県内医療従事者に受講してもらい、普及・啓発の役割を担っていただく

医療機関等の在宅医療提供体制整備支援

【病院・診療所・訪問看護ステーション等への支援】

- 訪問診療等設備整備事業
 - ・ 訪問診療・訪問看護・訪問リハ等に必要な医療機器・車両等の整備を支援 【補助率】 2 / 3
- 医療介護情報連携モデル事業
 - ・ まめネットを活用して県内の医療機関、団体等が行う情報連携推進のための試行的・先進的な取組を支援 【補助率】 3 / 4

【病院への支援】

- 在宅医療に関する病院の体制整備事業
 - ・ 在宅医療を行う病院が、在宅医療提供体制の整備を目的として実施する院内研修等への支援 【補助率】 1 / 2
 - ・ 県主催の病院向け在宅医療研修会開催経費（県主催で病院向け研修会を開催し、在宅医療整備に関する情報交換・研修を行う）

病床の機能分化を促進するための支援

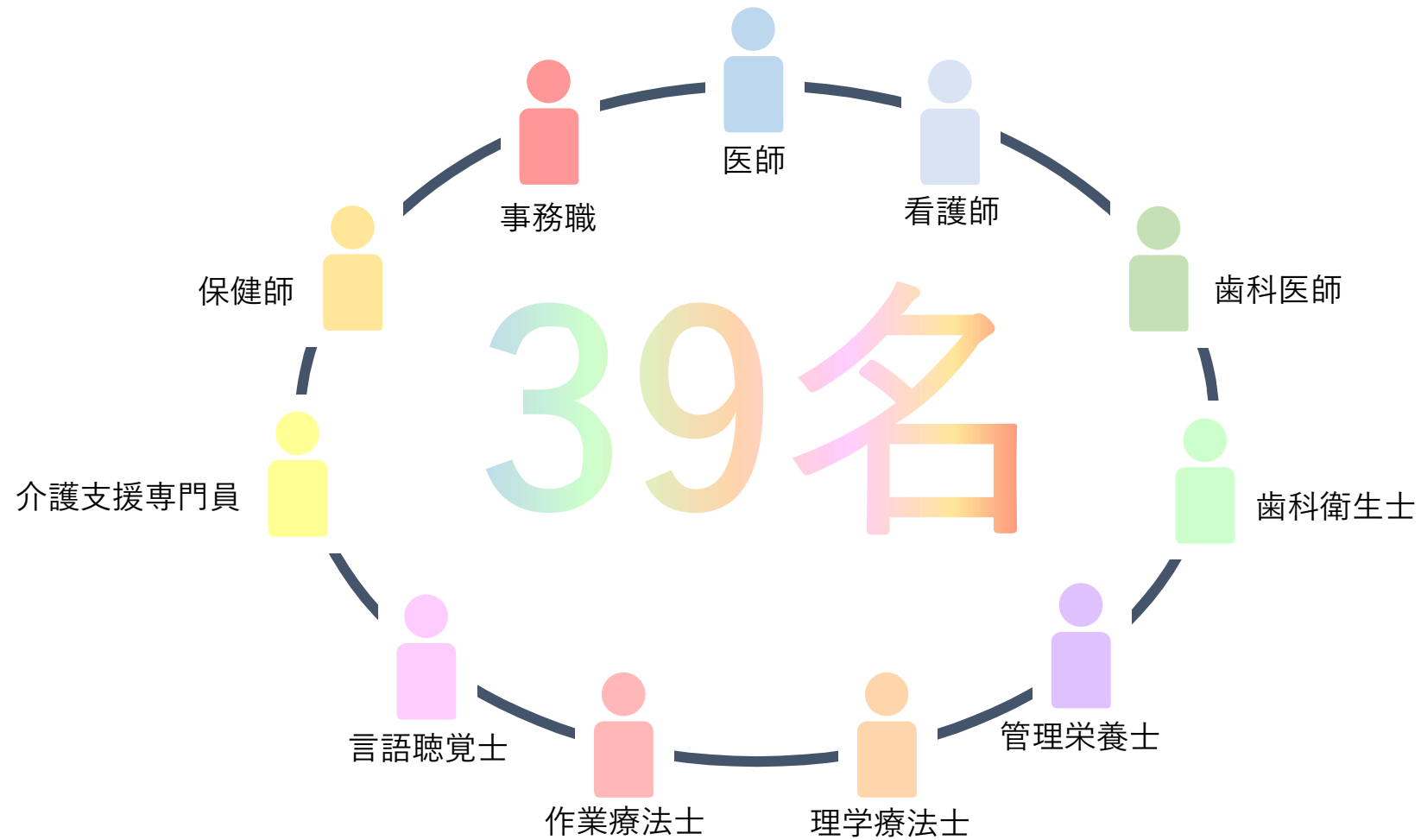
【郡市医師会等への支援】

- 病床の機能分化に向けた医療連携推進コーディネーター配置事業
 - ・ 郡市医師会等に在宅医療の供給についての検討や病院・行政等との各種調整を行う人材を配置し、地域の病床機能分化の促進・質の高い在宅医療提供体制の確保を図る 【補助率】 10 / 10
- 圏域課題解決推進事業
 - ・ 医療機関を含む連携チームが行う圏域の課題解決に具体的に寄与する
 - ・ 取組のうち、別に定める応募及び審査の手続きにより認められた取組について支援する 【補助率】 2 / 3

3

※総合確保基金（医療）分、一部事業除く

食任会のメンバー



大田食支援研究会の目指すところ

M

(みつける)



- 食支援に課題がある人
- 食支援に悩む支援者
- 食支援に関心がある支援者

T

(つなげる・つながる)



- 課題がある人と専門職
- 悩む支援者と専門職
- 専門職と専門職



食支援により詳しい専門職を目指して
トピックの共有と症例検討等を実施

K

(効果が出る)



- 食生活がより充実する
- 悩みが解決し、関わりが良くなる
- 医療介護連携が推進する

※新食研のMTKを参考に改変

※この説明では、わかりやすくするために
「支援者は医療介護従事者」
「専門職は食任会への参加者」としています。

毎月の定例会・時々役員会

- コロナ禍でも活動を継続するために集合型＋オンラインで開催
- 食支援に関する症例検討の実施（例 認知症の方の訪問歯科診療 等）
- 最新トピックの情報提供（例 嚥下チェッカー 等）
- 「〇〇先生」→「〇〇さん」と呼び合う
- 「1人」ではなく「みんなで」がんばる（司会・書記・控えで交代制に）
- Facebookに取り組みを投稿 「イイネ」をお願いします！



くちビルディング選手権体験会 (R1.10)

しまね型
医療提供体制
構築事業

社会医療法人仁寿会 加藤病院の協力を得て、
「くちビル@和かち逢う家」を圏域で開催！！



大田市の生活支援CDの参加も多く、
地域の通いの場での活動として展開へ

くちビルディング選手権とは？

子どもからお年寄りまでの多世代が混じりあって楽しく戦う、口腔機能に特化した新感覚スポーツ。(プレイフルケア)



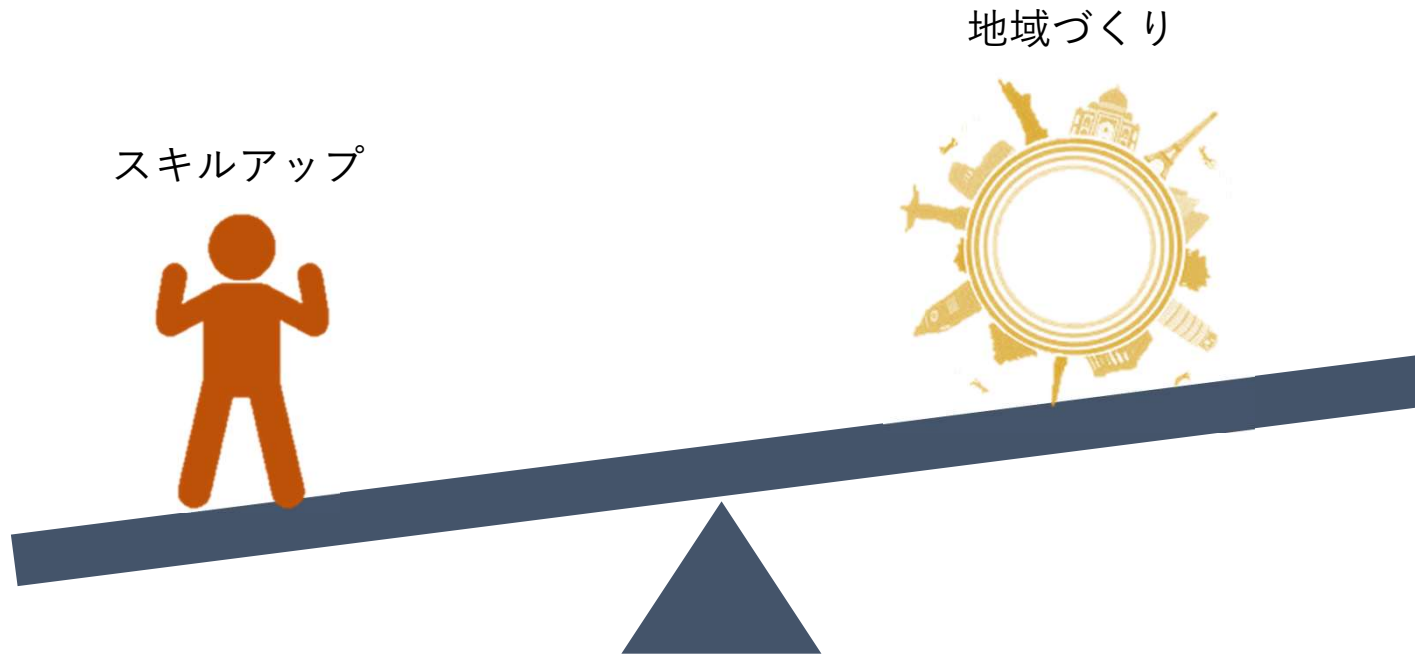
フェイスシールド作成プロジェクト (R2.5)

「ポリテクカレッジ島根」×「江津市建設業者2社」×「大田食支援研究会」でフェイスシールドの制作・配布を実施。

大阪大学3D PRINT FACE SHIELD プロジェクトと協働



個人のスキルアップか？ 地域づくりか？



職種や立場、キャリアによって考えは色々
「みんなの気持ちを統一する必要はない」が答えかも



HOP
(背景)

STEP
(内容)

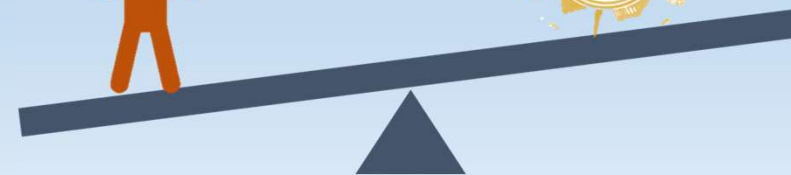
悩んで

JUMP
(未来)

スキルアップ



地域づくり





大田圏域には食支援に少し詳しい医療介護従事者が増えてきています
顔の見える関係の種をまき、連携の花が咲き始めました 🌸

月1回 顔を合わせて、食支援にちょっと詳しく。
ぜひ、遊びに来てください。

